様式 C-19

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年６月５日現在

機関番号：１２４０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2009～2011
課題番号：２１６５２０４９
研究課題名（和文）　日本語教育に詩を取り入れるための教授法研究

研究課題名（英文）　A Study of Method for Including Poetry in Japanese Language Teaching

研究代表者
新井高子（ARAI TAKAKO）
埼玉大学・国際交流センター・准教授
研究者番号：３０２９２６５０

研究成果の概要（和文）：日本語教育に詩歌を取り入れるために、留学生の視点に立って作品を選定し、視聴覚資料や朗読、学生による創作も積極的に取り入れ、独自の教授法を開拓した本研究は、詩歌を通して、通常の語学レベルを超える豊かな理解力や表現力、知的好奇心を留学生から引き出せること、日本語教育とクリエイティブ・ライティングを連動させる新しい発想の教育が求められていること等を導き出した。

研究成果の概要（英文）：This research is to develop an original teaching method introducing poetry in Japanese education, in which I choose a piece of work from the perspective of international students, and absorb from positive creative writings written by students, audio-visual materials and story-telling. Therefore, it results in enhancing rich comprehension and expressiveness much better than ordinary language levels, developing the intellectual curiosity of international students, while acquiring a new educational idea relating to Japanese language studies and creative writing, and so on through poetry in this teaching method.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	500,000	0	500,000
2010 年度	300,000	0	300,000
2011 年度	100,000	30,000	130,000
年度			
年度			
総　計	900,000	30,000	930,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・日本語教育
キーワード：教授法・カリキュラム・日本語の詩

１．研究開始当初の背景

(1) 世界文学に大きな影響を与える俳句という韻文形式を誕生させた言語であるにも関わらず、日本語教育において、詩歌はその内容や語法の難解さのために、取り上げられることが著しく少なかった。

(2) 他の語学教育と比べ、日本語教育は実用性に偏る傾向が著しく、教育の発想をより多彩に拡げていく必要があった。

２．研究の目的

(1) 日本語教育に詩（短歌、俳句を含む）を取り入れるための教授法を開拓し、その教育

の領域を拡大させ、豊富化させる。

⑵　日本語の詩歌が持つ音韻的な美しさや面白さ、それが構築することができる意味の深みを留学生に伝えるために、有効な教授法を検討し、考案する。

⑶ 日本語の新鮮な使い手として留学生をとらえ、詩の講読や実作を通して、創造的かつ想像的な言語能力を育む。

３．研究の方法

⑴ 特に近代・現代の詩歌を精読し、作品の中に使われた文法や語彙を解析する。合わせて、その文学史や批評、作者の伝記等を読む。

⑵ 日本語能力試験Ｎ２レベルを一つの基準とし、留学生の視点に立って、親しみやすい作品、興味深い作品、また、大学教育の教養としてふさわしい作品を選定する。

⑶ 学生の感覚的な理解を促すために、詩人（歌人、俳人も含む）による自作朗読等のＣＤやＤＶＤ、文学館等が発行する図録や写真集、歴史的な詩集の復刻版など、視聴覚資料を収集する。

⑷　⑴～⑶を踏まえ、詩歌を教えるための教授法を検討し、その実現のために必要な教材（プリント、スライド、ＣＤ等）を作成する。

⑸ 埼玉大学の留学生を対象に、詩作ワークショップを含ませながら、日本の詩歌について講義する。その際、授業への評価アンケート、取り上げた作品に対する感想の執筆を学生に課す。

⑹ アンケート結果や学生の反応等によってフィードバックを得ながら、3年間継続的に日本の詩歌を講義し、教授法を練る。

⑺ 考案した教授法やアンケート結果を論文に包括する。

⑻ 留学生が執筆した詩を詩集としてまとめる。また、彼らが執筆した感想を、資料集として編集する。

４．研究成果

⑴ 主に近代・現代の詩人の作品を選定し、それらをほぼ時系列に配置して講義することによって、留学生の視点に立った作品講読を基礎とする、日本詩歌の概説史を構築できた。これは、新しい発想に基づいた、国際的な発信力の高い近現代詩歌概説と言える。

　学生による評価アンケートに基づくならば、日本理解や知的好奇心の向上の点で、本研究を積極的に評価する者は、８割近くに達した。今後も日本の詩歌を読みたいと表明する者も７割以上に達し、本研究による作品の選定と構成は、学生から非常に高い評価を受けたと言える。詩を読むことが日常から隔たっていることの多い日本の状況に比べ、留学生はむしろこれを身近に感じる傾向があることも踏まえるならば、国際教育において、詩は、日本人教師の通念以上に重要な文学形式だと言える。

⑵ ＣＤの音声や教員・学生による朗読の声、ＤＶＤやビデオによる映像、パワーポイントによる詩人の手書き原稿や肖像写真のスライド提示等を多角的に組み合わせることで、学生の五感を刺激し、感覚的な言語理解をも育む教授法を考案した。評価アンケートによると、８割以上の学生がこの授業方法を積極的に評価した。

⑶ 講義で取り上げたそれぞれの作品について、理解度と関心度を測るアンケートも取ったところ、好評価を得た中には、日本語能力試験Ｎ２レベルの文法や語彙の範囲に収まる作品ばかりでなく、それを超える難解な作品も含まれた。

　留学生を対象にした詩歌の選定は、語学的な難易度による基準を第一の前提としながらも、それだけでなく、国際社会におけるテーマの普遍性が重要であること、詩法の現代性や挑戦性等も彼らの知的好奇心を強く喚起すること等が示された。本研究の試みは、語学的な次元に収まらない、想像的な言語能力を、学生が養成・発揮する契機となったとも言える。

⑷ 学生が各詩歌について執筆した自由記述の感想は、作品に出会った感動を率直に表現したもの、これまでの読書体験を踏まえて批評的に考察したもの等、非常に多彩な内容となった。留学生の生き生きとした反応を、このように体系的に収集できたことは、日本文学を外側から眺めた記録として貴重だと言える。

⑸ 留学生が日本語の詩を創作するワークショップも、彼らに高く評価された。アンケートによると、日本語で詩を書くことに興味が持てたかの問い、それは知的好奇心を高めたかの問い、これからも日本語で詩を書いてみたいかの問いに対して、積極的に評価する学生は、それぞれ６割以上に達した。

　日本語を母語としない元学習者、元留学生が、文芸の世界で名誉ある賞を受賞することも珍しくなくなった社会状況も踏まえるならば、語学教育とクリエイティブ・ライティ

ングを連動させる、新しい発想の日本語教育が新たに求められていると言える。留学生を日本語の「学習者」と見るだけでなく、新鮮かつ創造的な「表現者」としても捉えていく方向が期待されている。

(6)【資料】
学生による授業評価アンケート
主な結果（%）

	①	②	③	④	⑤
授業は、日本理解や知的好奇心を高めたか	11	66	23	0	0
これからも日本語の詩を読んでみたいか	6	68	20	6	0
授業で使ったCD、DVD等に興味が持てたか	44	39	13	4	0
授業で使ったスライド等に興味が持てたか	37	48	11	4	0
日本語で詩を書くことに興味が持てたか	15	52	26	7	0
詩を書くことは知的好奇心を高めたか	17	43	34	6	0
これからも日本語で詩を書いてみたいか	9	52	33	6	0

（注）
・この表は、アンケートの一部を抜粋して作成した。2009年度と2010年度の結果を合算して記す。
・回答者の総数は、54名。
その内、2009年度の受講者は35名、2010年度の受講者は19名。
・小数点以下は、四捨五入。
・表中の①～⑤は、それぞれ以下の内容を意味する。
①とてもそう思う
②そう思う
③少しそう思う
④あまりそう思わない
⑤ぜんぜんそう思わない
・(1)～(5)の文中における「積極的評価」とは①と②の合算を指す。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）
① 新井高子、日本語教育に詩を取り入れるための教授法研究(2)、国際交流センター紀要（埼玉大学国際交流センター発行）、査読有、第６号、2012、1-13
② 新井高子、日本語教育に詩を取り入れるための教授法研究(1)、国際交流センター紀要（埼玉大学国際交流センター発行）、査読有、第５号、2011、1-15
③ 新井高子、声の口語自由詩―ＣＤ『よみがえる自作朗読の世界』から、ミて―詩と批評（ミて・プレス発行）、査読無、第109号、2009、1-6

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計４件）
① 新井高子編、留学生による詩歌感想集―日本語教育に詩を取り入れるための教授法研究―、埼玉大学国際交流センター新井高子研究室、2012、151
② 新井高子編、留学生詩集 2011、埼玉大学国際交流センター新井高子研究室、2012、25
③ 新井高子編、留学生詩集 2010、埼玉大学国際交流センター新井高子研究室、2011、19
④ 新井高子編、留学生詩集 2009、埼玉大学国際交流センター新井高子研究室、2010、33

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
新井高子（ARAI TAKAKO）
埼玉大学・国際交流センター・准教授

研究者番号：３０２９２６５０

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：